


第1回

循環型包装コース

講師 住本技術士事務所 所長 住本 充弘 氏

- 開催日：令和5年9月20日(水) 13:00～17:00
- 会場：Zoomによるオンラインセミナー
- 主催： 公益社団法人日本包装技術協会

受講のお勧め

環境包装について、包装業界は長年、その時代ごとに対応してきた。2015年にパラダイムシフトが起こり、ビジネス活動が脱炭素の方向となり、circular economyの概念が押し出された。今までの使い捨ての考えから、利用が終わった商品を修理あるいは再生再利用する動きとなり、包装も循環型パッケージの考えを促進する方向で動き出した。すべてのパッケージはリサイクルが可能で、かつ再生材料を配合あるいは100%使用することを義務付ける動きが欧州で始まり、具体的な数値が規則として制定されようとしている。この動きは世界の包装業界に大きな影響を与え、特に食品包装では、recycled plasticsをある認定条件の基で欧州では利用することが義務化される。日本ではこのような動きはないが、包装商品を欧州に輸出する場合はこの規則の対象となる。世界の包装業界にも、この動きが拡大すると予測され、プラスチック包装について日本はいつまでも100%石油由来を使い続けることが難しくなる。Bio-based Polymersや紙代替仕様を開発しても、循環型パッケージ、循環型ポリマー(rPE, r PPなど)の使用に対応しなければならない。WPO(世界包装機構)はPackaging Design for Recycling Guideを作成し世界の包装業界にリサイクル推進を求めている。

このような国内外の動きの中で、日本独自の包装の道はなく世界の包装基準に準じた包装を実践することが必要であり、循環型ポリマーの利用促進なくして日本の包装はあり得ない時代に突入している。本セミナーは、国内外における循環型パッケージ、特に循環型ポリマー利用とさらに紙利用軟包装に的を絞って、どのように対応しているかの現状、バリア性対応・モノマテリアル対応・アルミ箔対応・脱インク及び剥離技術、recyclableなどの事例、interpack 2023出展事例など国内外の事例を説明する。これからの日本の包装の進む方向を予測し自社の包装方針の参考のため受講を勧めます。

開催要領

- 名称：第1回循環型包装コース
- 日時：令和5年9月20日(水) 13時～17時
- 開催方法：Zoomによるオンラインセミナー
- 定員：300名

参加費

- 会員：9,900円(消費税・テキスト代込み)
- 一般：22,000円(消費税・テキスト代込み)

第1回循環型包装コースの参加申し込みについて

- 本催しは「Zoomウェビナー」を利用したオンライン配信となります。お申し込みは当会ホームページの循環型包装コース参加申込ページよりご登録いただくようお願いいたします

当会ホームページURL：<https://www.jpi.or.jp/>

- 参加申込者には参加用URL、参加方法、参加までの手順、注意事項をお知らせしますので、確認の上参加の準備を進めて下さい。(登録後、事前の参加手続きが必要ですのでご注意ください。)
- 申し込みされた方には後日参加料請求書をお送りします。
- 申込者1名のみ本催しに参加できます。1つのメールアドレスで1人のご参加となります。

※同じ名前の方のご参加を発見した場合は、ご連絡した後に参加登録の削除をする場合があります。

【注意事項】

- ①「Zoomウェビナー」を利用したオンライン配信となりますのでご利用の端末へのZoomアプリケーションのインストールおよびインターネット接続が必要となります。
- ②接続回線の状況により視聴しにくい場合があります。通信費・接続利用料金等は自己負担となります。
- ③本セミナーの内容について、録画・録音・キャプチャー取得によるデータ保存行為を固く禁止します。
- ④申し込みの際メールアドレスの入力が間違っていると案内メールをお送り出来ませんのでご注意ください。
- ⑤開催3日前からのキャンセルによる参加費のご返金はできませんのでご注意ください

プログラム

時間	講義内容	
13:00 ┆ 14:30	1. 世界の包装の動きの理解 2. 循環型パッケージ、循環型ポリマーとは 3. 欧州の動き(世界の包装の進むべき方向を示している) 3.1 欧州のパッケージのリサイクル目標 (世界の包装業界に大きな影響) 3.2 EU2022/1616の世界の包装への影響 (食品一次包装にrecycled plastics OK) 3.3 FDA、EFSAの懸念事項 4. EUの第三者認証制度、interpack 2023に見る認証商品表示事例、輸出包装の対応 5. Recyclableの理解(Greenwash懸念) 5.1 海外のプラスチック業界のRecyclable認定の取り決め事項と認証 5.2 国内外コンバーターの顧客への提案事例 (日本でrecyclableと断言できるか) 5.3 樹脂メーカーのrecycled plastics供給対応事例 (国内外) 6. 包装製品のサプライチェーンにおける追跡性 7. プラスチックの再生技術 7.1 リサイクル技術の種類 7.2 メカニカルリサイクルの具体的な事例(海外事例) 7.3 ケミカルリサイクルの具体的な事例(国内外)	10. 再生材料、PCR(certified recycled plastics)の利用事例と課題 10.1 国内外の事例 (interpack 2023出展及び認証商品事例他) 10.2 rPE, rPP他の対応と課題 10.3 モノマテリアル事例とグリーンウォッシュの危険 11. 紙を含む包装仕様の対応 11.1 バリア性付与と古紙再生性(リサイクル性は必須) 11.2 リサイクルしやすい構造の事例 11.3 成形容器への挑戦 11.4 バリア性付与事例とパルプ由来のバリア性材料の模索
14:30 ┆ 14:37	7分休憩 休憩後に今まで内容のQ&A	16:00 ┆ 16:07
14:37 ┆ 16:00	8. 回収・選別技術 8.1 メカニカルリサイクル品のUpcyclingに向けてのDelamination 及びDe-inking 8.2 一般包装廃棄物の選別技術の事例 (Recycleye社、HolyGrail 2.0) 8.3 国内外の回収・選別・再生事例と課題 (店頭回収、宅配回収、カーブサイド) 9. 脱インクと剥離技術 9.1 アップサイクリングの無色、無臭のrecycled ペレット 9.2 脱インク・剥離技術とビジネス事例	12. 循環型パッケージに実現のための対応事例 12.1 材料面(インク、接着剤) 12.2 包装材料の製造面 12.2.1 インクジェットデジタル印刷 12.2.2 無溶剤タイプ(ノンソルベント接着剤) 12.2.3 リモートコントロール 12.2.4 クラウド利用の包材発注 12.2.5 耐熱OPP(レトルト対応できるか) 12.2.6 遮光性、バリア性アップのアルミ蒸着フィルム 12.2.7 安定HS性及び確認の包装 12.3 海外の生分解性、コンポストブルの利用について 13. 環境対応パッケージの事例と課題 ・Scope3 (スコープ3) などへの対応 ・自社の包装は循環型パッケージに対応しているか ・包装製品のサプライチェーンにおける追跡性への対応は まとめ 日本及び自社の包装がやるべきことはなにかをまとめる。 Q&A

講師紹介

住本技術士事務所 所長 **住本 充弘 氏**

技術士(経営工学)、包装管理士

JPI「包装技術便覧」、「包装技術」をはじめ、業界誌、講演等多数

個人情報の取扱いについて

個人情報は「第1回循環型包装コース」の事業実施に関わる資料の作成、並びに当会が主催する各事業におけるサービス提供や事業のご案内等のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。参加申込によりご提供頂いた個人情報は法令に基づく場合などを除き、第三者に開示提供する事は ありません。

お問い合わせ先

公益社団法人日本包装技術協会 業務本部 教育・研修部 担当:佐藤

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F

TEL:03-3543-1189 FAX:03-3543-8970 e-mail:satou@jpi.or.jp